

# ミャンマー：コメと豆類の需給動向

明石 光一郎

## 1. はじめに

ミャンマーはこの30年以上にわたり世界第7位のコメ生産国である。また、1961～63年においては、150万トン以上を輸出する世界一のコメ輸出国であった。その後、コメ輸出は低迷を続け、タイ、インド、ベトナムに追い抜かれた。輸出量もFAOSTATの数値では1967年以降100万トン未満である。ただし、USDAの推計値では、2002年と2009年以降はかろうじて100万トンを超えている。しかしながら、このミャンマーのコメ輸出低迷は強権的な政策の失敗によるものである<sup>(1)</sup>。政策転換によりミャンマーが再度コメ輸出大国として復活する可能性もありうる。折しも、ミャンマーでは2011年に軍事政権から民事政権への移管が進み米欧の経済制裁が緩和された。2015年の国政選挙ではアウンサンスーチー率いる国民民主連盟(NLD)が大勝した。今後は国外からの投資がさらに増加し、農業はミャンマーの最大の産業であるため、農業への投資も増加すると期待できる。

本稿ではFAOSTATとUSDAのデータに大きな違いがあるため両者を併用して、ミャンマーの近年のコメ生産動向と輸出動向をトレースし、再びコメ輸出大国として回復基調にあるのかそれとも長期低迷を抜け出せないでいるのか検討を試みる。さらに、コメ輸出の低迷とは裏腹に、乾燥豆の輸出は劇的に増大したので、その動向について概観することとする。

## 2. ミャンマーの農業の主要農産物

まず、ミャンマー農業の2012年度における主要作物の播種面積をあげる<sup>(2)</sup>。播種面積の約40%が穀物であるが、特にコメの比率が高く播種面積の34%を占めている。次に多いのが豆類であり21%を占めている。さらに油糧種子が16%となっている。

つぎに第1表に農畜産物生産額を示す。2003年において穀物は全農畜産物生産額の52%、コメは50%、豆類は12%、畜産物は12%であった。2013年には、穀物の比率は減少して37%、コメは33%、豆類は17%とやや増加している。豆類のなかでも乾燥豆の比率が特に高いことがわかる。畜産物は22%と増加している。

第1表 農畜産物生産額

単位：100万チャット，％，倍

	2003年		2013年		(2013/ 2003)
	生産額 (100万チャット)	構成比 (%)	生産額 (100万チャット)	構成比 (%)	生産額比率 (倍)
<b>穀物</b>	2,316,623	52.2	6,534,478	36.7	3
小麦	23,067	0.5	75,163	0.4	3
コメ	2,215,306	49.9	5,873,272	33.0	3
トウモロコシ	48,612	1.1	473,253	2.7	10
粟 黍	8,459	0.2	58,768	0.3	7
キャッサバ	21,178	0.5	54,023	0.3	3
<b>油糧種子</b>	609,735	13.7	2,629,912	14.8	4
ラッカセイ	309,600	7.0	1,299,239	7.3	4
ゴマ	209,691	4.7	1,049,477	5.9	5
ヒマワリ	77,548	1.7	211,536	1.2	3
マスタードシード	12,897	0.3	69,660	0.4	5
<b>豆類</b>	548,431	12.4	2,991,087	16.8	5
乾燥豆	332,599	7.5	2,196,154	12.3	7
エンドウ豆、乾燥	8,583	0.2	35,168	0.2	4
ひよこ豆	44,634	1.0	235,811	1.3	5
ササゲ、乾燥	24,480	0.6	77,198	0.4	3
キマメ	109,887	2.5	373,708	2.1	3
レンズ豆	230	0.0	990	0.0	4
大豆	28,017	0.6	72,058	0.4	3
<b>工業作物</b>	114,813	2.6	519,932	2.9	5
種子綿	9,860	0.2	43,325	0.2	4
綿実	996	0.0	6,564	0.0	7
コットン糸くず	9,963	0.2	63,293	0.4	6
サトウキビ	24,203	0.5	85,202	0.5	4
ジュート	2,756	0.1	309	0.0	0
その他植物繊維	529	0.0	2,190	0.0	4
タバコ	33,749	0.8	96,660	0.5	3
ゴム	32,756	0.7	222,389	1.2	7
<b>料理作物</b>	283,568	6.4	1,208,248	6.8	4
ジャガイモ	37,080	0.8	213,040	1.2	6
玉ねぎ	87,886	2.0	279,545	1.6	3
ニンニク	39,425	0.9	179,803	1.0	5
プランタン	119,177	2.7	535,860	3.0	4
<b>プランテーション作物</b>	39,989	0.9	98,406	0.6	2
コーヒー	1,323	0.0	15,867	0.1	12
茶	16,785	0.4	39,189	0.2	2
ココナッツ	21,881	0.5	43,350	0.2	2
<b>畜産物</b>	522,829	11.8	3,835,127	21.5	7
<b>合計</b>	4,435,988	100.0	17,817,190	100.0	4

資料：FAOSTAT.

注) 品目の分類はMinistry of Agriculture and Irrigation の分類に合わせた。

為替レートは、2003年には1ドルが778チャット、2013年には1ドルが934チャット。

第2表 農畜産物輸出額

単位：1000\$，％，倍

	2003年		2013年		(2013/ 2003)
	輸出額 (1000\$)	構成比 (%)	輸出額 (1000\$)	構成比 (%)	輸出額比率 (倍)
乾燥豆	272,000	57.7	1,050,000	74.5	3.9
コメ	71,000	15.1	157,910	11.2	2.2
ゴマ	24,764	5.3	32,000	2.3	1.3
牛	5,326	1.1	20,960	1.5	3.9
トウモロコシ	8,588	1.8	18,480	1.3	2.2
ひよこ豆	19,956	4.2	10,472	0.7	0.5
合計	471,422	100.0	1,409,843	100.0	3.0

資料：FAOSTAT.

続いて第2表で農畜産物の輸出額をみる。乾燥豆の比率が圧倒的に高く、2003年で58%、2013年には75%にまで増加している。以上より、コメは播種面積でも生産額でもミャンマーの最重要作物であること、乾燥豆は輸出作物として最重要作物であることを確認した。

### 3. コメ

#### (1) 世界におけるミャンマーのコメ

世界のコメ生産とミャンマーの位置を示す。第3表はFAOSTATの統計であり、その値は各国政府から提供された値を使用しており、ミャンマー政府公式統計である。第4表はUSDA(米国農務省)の推計値である。ミャンマー政府統計はコメ生産を過大に評価し、USDAは過小に評価する傾向があることは多くの研究者から指摘されている<sup>③</sup>。本稿では、両者の値にかなりの違いがあるので、可能な限り双方の値を掲載することとする。ミャンマーのコメ生産は、FAOSTAT、USDAともに1980年から2014年にかけて世界第7位の座をキープしており、この20年以上にわたりミャンマーがコメ生産大国であり続けてきたことは間違いない。

第3表 世界のコメ生産 (FAOSTAT)

	単位:1000ton									
	中国	インド	インドネシア	バングラデッシュ	ベトナム	タイ	ミャンマー	フィリピン	ブラジル	日本
1980	139.910	80.312	29.652	20.821	11.647	17.368	13.317	7.646	9.776	12.189
1981	143.955	79.883	32.774	20.446	12.415	17.774	14.147	7.911	8.228	12.824
1982	161.600	70.772	33.584	21.325	14.390	16.879	14.373	8.534	9.735	12.838
1983	168.865	90.048	35.303	21.761	14.743	19.549	14.288	7.295	7.742	12.958
1984	178.255	87.553	38.136	21.933	15.506	19.905	14.256	7.829	9.027	14.848
1985	168.569	95.818	39.033	22.556	15.875	20.264	14.317	8.806	9.025	14.578
1986	172.224	90.779	39.727	23.110	16.003	18.868	14.127	9.247	10.405	14.559
1987	174.260	85.339	40.078	23.121	15.103	18.428	13.638	8.540	10.425	13.284
1988	169.110	106.369	41.676	23.316	17.000	21.263	13.167	8.971	11.806	12.419
1989	180.130	110.311	44.726	26.784	18.996	20.601	13.807	9.459	11.030	12.934
1990	189.331	111.517	45.179	26.778	19.225	17.193	13.972	9.885	7.421	13.124
1991	183.381	112.042	44.688	27.242	19.622	20.400	13.204	9.673	9.488	12.005
1992	186.222	109.001	48.240	27.373	21.590	19.917	14.840	9.513	10.006	13.216
1993	177.514	120.400	48.181	26.928	22.837	19.530	16.763	9.434	10.107	9.793
1994	175.933	122.640	46.642	25.124	23.528	21.111	18.199	10.538	10.541	14.976
1995	185.226	115.440	49.744	26.399	24.964	22.016	17.957	10.541	11.226	13.435
1996	195.102	122.500	51.102	28.182	26.397	22.332	17.680	11.284	8.644	12.930
1997	200.730	123.700	49.377	28.152	27.524	23.580	16.651	11.269	8.352	12.531
1998	198.712	129.055	49.237	29.710	29.146	23.450	17.078	8.555	7.716	11.200
1999	198.487	134.496	50.866	34.430	31.394	24.172	20.126	11.787	11.710	11.469
2000	187.908	127.465	51.898	37.628	32.530	25.844	21.324	12.389	11.090	11.863
2001	177.581	139.900	50.461	36.269	32.108	28.034	21.916	12.955	10.184	11.320
2002	174.539	107.730	51.490	37.593	34.447	27.992	21.805	13.271	10.457	11.111
2003	160.656	132.789	52.138	38.361	34.569	29.474	23.146	13.500	10.335	9.740
2004	179.089	124.697	54.088	36.236	36.149	28.538	24.939	14.497	13.277	10.912
2005	180.588	137.690	54.151	39.796	35.833	30.292	27.683	14.603	13.193	11.342
2006	181.718	139.137	54.455	40.773	35.850	29.642	30.924	15.327	11.527	10.695
2007	186.034	144.570	57.157	43.181	35.943	32.099	31.451	16.240	11.061	10.893
2008	191.827	148.036	60.251	46.742	38.730	31.651	32.573	16.816	12.061	11.029
2009	195.103	135.673	64.399	48.144	38.950	32.116	32.682	16.266	12.651	10.592
2010	195.761	143.963	66.469	50.061	40.006	34.409	32.580	15.772	11.236	10.604
2011	201.001	157.900	65.757	50.627	42.398	36.128	29.010	16.684	13.477	10.500
2012	204.285	157.800	69.056	50.497	43.662	37.469	28.080	18.032	11.550	10.654
2013	203.612	159.200	71.280	51.500	44.039	36.063	28.767	18.439	11.783	10.758
2014	206.507	157.200	70.846	52.231	44.974	32.620	26.423	18.968	12.176	10.549

資料: FAOSTAT.

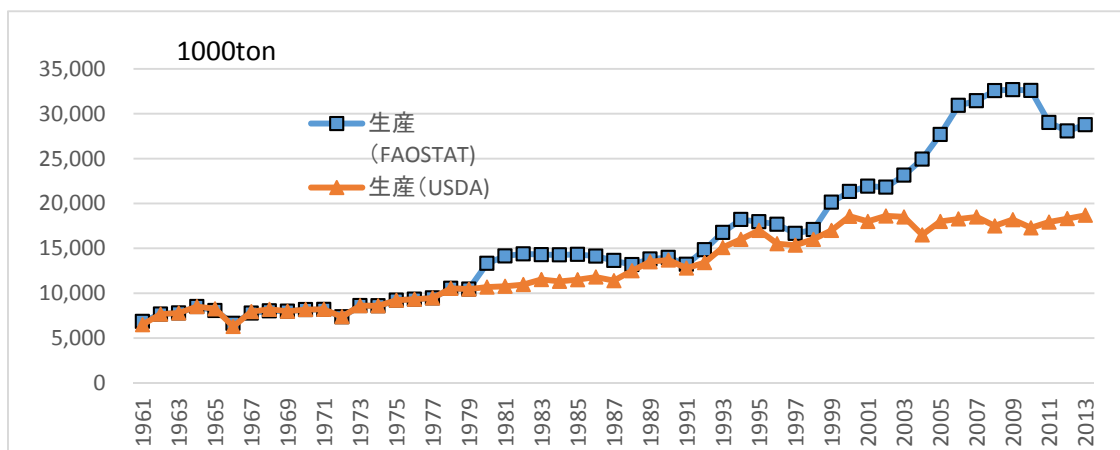
第4表 世界のコメ生産 (USDA)

	中国	インド	インドネシア	バングラデッシュ	ベトナム	タイ	ミャンマー	フィリピン	ブラジル	日本
1980	139,906	80,527	32,774	20,844	11,842	17,368	10,680	7,723	8,638	12,188
1981	143,954	79,952	33,584	20,467	13,238	17,776	10,760	8,110	9,154	12,826
1982	161,596	70,681	35,303	21,345	15,232	16,877	10,960	7,731	7,900	12,838
1983	161,596	70,681	35,303	21,345	15,232	16,877	10,960	7,731	7,900	12,838
1984	178,256	87,514	39,032	21,932	16,356	19,905	11,320	8,200	8,765	14,848
1985	168,570	95,747	39,726	22,562	15,955	20,264	11,500	9,097	9,816	14,577
1986	172,224	90,633	38,310	23,111	14,905	18,668	11,800	8,971	10,578	14,559
1987	173,880	85,302	41,675	23,122	17,427	18,427	11,400	8,680	11,800	13,284
1988	169,110	105,744	44,726	23,327	18,248	21,264	12,500	9,225	11,088	12,419
1989	180,130	110,371	45,178	26,793	19,350	20,602	13,500	8,900	7,971	12,934
1990	189,331	111,448	44,680	26,781	18,777	17,192	13,695	9,885	10,000	13,124
1991	183,810	112,031	48,231	27,378	22,179	20,400	12,800	9,132	10,100	12,005
1992	186,220	109,313	48,182	27,513	22,183	19,917	13,400	9,523	9,901	13,216
1993	177,700	120,462	46,638	27,064	24,317	19,200	15,086	9,923	10,515	9,793
1994	175,930	122,727	49,743	25,252	24,615	21,400	16,000	10,475	11,235	14,977
1995	185,214	115,482	51,100	26,533	26,792	21,800	17,000	11,174	10,026	13,435
1996	195,100	122,607	49,360	28,326	27,277	20,700	15,517	11,177	9,524	12,930
1997	200,700	123,822	49,237	28,296	28,930	23,500	15,345	9,982	8,462	12,532
1998	198,714	129,133	50,866	29,784	30,467	23,620	16,000	10,268	11,582	11,201
1999	198,480	134,533	51,899	34,602	31,706	25,000	17,000	11,957	11,424	11,470
2000	187,909	127,483	51,500	37,633	31,020	25,844	18,571	12,515	10,196	11,863
2001	177,580	140,024	51,101	36,469	31,873	26,514	18,000	13,000	10,393	11,321
2002	174,543	107,741	51,800	37,784	32,617	26,058	18,600	13,000	10,368	11,111
2003	160,660	132,808	54,301	39,232	33,458	27,289	18,500	14,154	12,807	9,740
2004	179,090	124,707	54,000	38,404	34,418	26,303	16,500	14,500	13,229	10,912
2005	180,591	137,699	54,200	43,141	34,503	27,576	18,000	15,109	11,579	11,342
2006	181,714	140,039	54,729	43,504	34,730	27,652	18,276	15,516	11,316	10,695
2007	186,034	145,050	57,364	43,204	36,932	30,000	18,500	16,633	12,057	10,893
2008	191,900	148,785	59,395	46,805	38,904	30,076	17,500	17,071	12,603	11,038
2009	195,100	133,648	57,276	46,505	39,989	30,697	18,191	15,511	11,660	10,622
2010	195,714	143,984	56,349	47,555	42,194	30,700	17,281	16,729	13,676	10,705
2011	201,000	157,981	57,480	50,555	43,443	31,000	17,927	17,000	11,600	10,731
2012	204,286	157,876	57,559	50,735	44,059	30,606	18,305	18,140	11,819	10,883
2013	203,614	159,826	57,165	51,590	45,058	31,000	18,683	18,822	12,206	10,902
2014	206,514	157,216	56,000	51,755	45,176	28,409	19,688	18,913	12,449	10,772

資料: USDA, "PSD Online".

(2) ミャンマーのコメ生産

ミャンマーのコメ生産統計を統計の入手可能な1961年から2014年までについて、ミャンマー政府統計値をそのまま掲載したFAOSTATデータと米国農務省が独自に推計したUSDAデータの双方を掲載する。また、両者の比も示しておく。



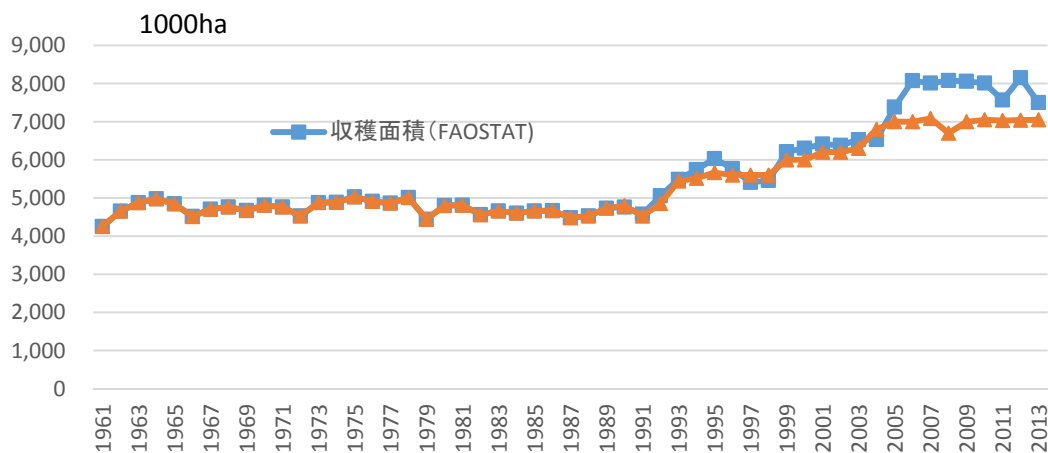
第1図 ミャンマーのコメ生産量

資料: FAOSTAT, USDA "PSD Online".

第1図はミャンマーのコメ生産量である。1961年から79年まではFAOSTATデータとUSDAデータはほぼ一致している。それ以降はFAOSTATデータのほうが大きい、両者は

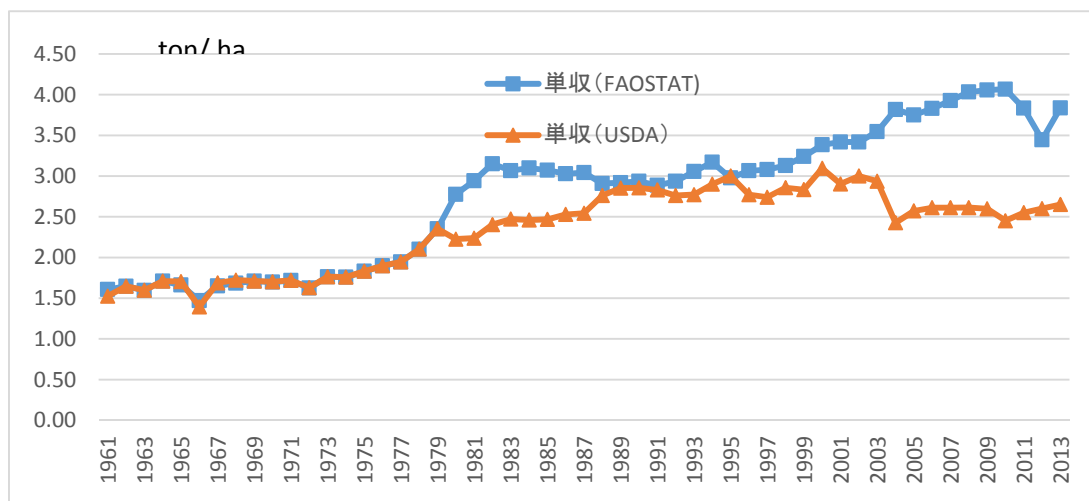
似た動きをしている。しかし 2003 年以降は全く異なる動きをする。FAOSTAT データは上昇傾向を続けるが、USDA データは停滞する。

コメ生産量の推移を収穫面積と単収に分けて考察する。まず収穫面積は第 2 図に示すように 1961 年から 1991 年まで 400 万ヘクタールから 500 万ヘクタールの間を推移し、殆ど増加していない。1992～2005 年は収穫面積の増加傾向が続く。2006～12 年にかけては、FAOSTAT データのほうがやや大きい値をとっている。



第 2 図 ミャンマーのコメ収穫面積

資料：FAOSTAT, USDA “PSD Online”。



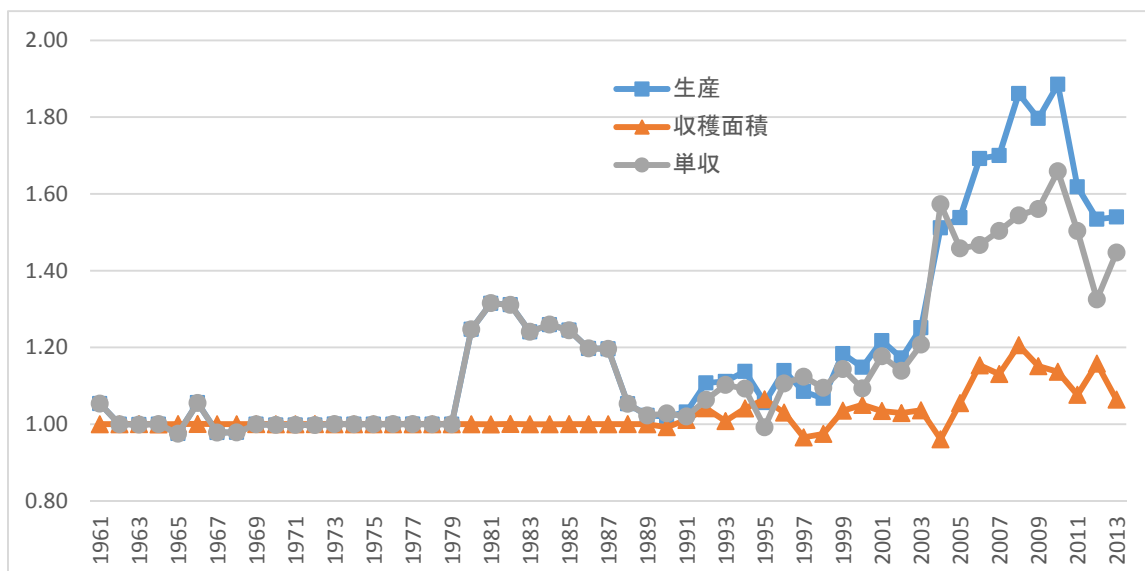
第 3 図 ミャンマーのコメ単収

資料：FAOSTAT, USDA “PSD Online”。

単収は第 3 図に示すように、1961～79 年までは FAOSTAT データと USDA データは同じ値である。1980～95 年にかけては、FAOSTAT データが大きい値をとってきた。2000 年以降は FAOSTAT データは上昇傾向にあるのに対して、USDA データは下降停滞傾向にある。

特に 2003 年以降の差が大きくなっている。

以上をまとめる。第 4 図は「FAOSTAT データと USDA データの比」を表すものであり、ミャンマー政府統計値（FAOSTAT データ）が USDA 推計値に対してどれだけ大きいかを表すものである。1961 年から 1979 年までは両データの相違はなかった。1980 年から 1991 年まで生産量の乖離が生じているが、これは単収の違いによるものである。収穫面積の値は両方のデータで、1961 年から 1991 年までは一致していた（最大でも 1% の違いしかなかった）。1992 年以降は収穫面積の推定値においても乖離が発生し始めるが、違いは大きくない。1989～91 年にはほぼ一致していた生産量値は 1992 年以降は傾向的に拡大してゆく。特に 2004～13 年は生産量は、FAOSTAT データは USDA データよりも 50% 以上過大である。両統計の差は単収の推計値の差による。2004～13 年の値は、FAOSTAT データは USDA データよりも約 40～50% 大きい。特に 2010 年には FAOSTAT データは USDA データよりも生産量において 89% 大きかったが、単収要因が 66%、面積要因が 14% であった。



第 4 図 FAOSTAT データと USDA データの比率

資料：FAOSTAT, USDA “PSD Online”.

### (3) ミャンマーにおけるコメ生産関連投入財の動向：肥料について

ミャンマー及び東南アジア諸国の農地面積当たり肥料投入を以下に示す。第 5 表は FAOSTAT の推計値、第 6 表は USDA の推計値である。ここではミャンマーにおける肥料投入が東南アジアの諸国と比較してどのような状況にあるのか、単収では 2000 年以降に FAOSTAT の推計値と USDA の推計値が乖離し始めるが（FAOSTAT では上昇、USDA では低下）、単収を決める重要な投入要素である面積当たり肥料投入はどのように変化しているのかについて分析する。

まず、いずれの推計値をみてもミャンマー（及びカンボジア）の農地面積当たり肥料投入

は他の東南アジア諸国と比較して極端に少ないことがわかる。

第5表のFAOSTATの推計値をみる。ミャンマー（及びカンボジア）の農地面積当たり肥料投入が他の東南アジア諸国と比較して極端に少ないことは、USDA推計と同じである。さらに2000年以降の面積当たり肥料投入をみるとUSDAの推計値と異なり、増加傾向にあることがわかる。（ただし2004年は異常値と思われる。）

第6表のUSDAの推計値は比較的長期の値が掲載されているが、ミャンマーの農地面積当たり肥料投入は1961年から1985年にかけては増加傾向にあるが、1985年の16kg/haで頭打ちとなり、その後は1992年の6kg/haまで減少する。1992年以降は再度増加しはじめるが、1995年の15kg/haで再度頭打ちとなり、その後は停滞する。そして2000年以降は減少傾向に入る。これは他の東南アジア諸国が着実に面積当たり肥料投入を増加させてきた事実と大きく異なる。ただし、フィリピンとベトナムは2000年以降に減少傾向にあるか停滞している。

以上をまとめると、ミャンマーの農地面積当たり肥料投入は、USDA、FAOSTATいずれの推計でも他の東南アジア諸国より著しく少ない。2000年以降の肥料投入の傾向をみると、USDAの推計値は減少傾向にあり、USDAがミャンマーのコメの単収が減少傾向にあるとしていることと整合的であり、FAOSTATの推計値は増加傾向にあり、FAOSTATがコメの単収が増加傾向にあるとしていることと整合的である。

第5表 東南アジア諸国の農地面積当たり肥料投入（FAOSTAT）

単位:kg/ha

	ミャンマー	カンボジア	インドネシア	マレーシア	フィリピン	タイ	ベトナム
2002	6.3	8.3	110.2	140.7	85.0		54.7
2003	7.7	5.6	128.3	171.6	137.8	234.3	69.4
2004	32.9	7.6	120.7	203.3	198.2	192.8	
2005	4.4	28.7	127.1	382.6	209.5	163.7	
2006	9.9	30.8	131.1	478.4	136.7	161.0	78.5
2007	9.2	10.1	133.4	512.2	163.8	180.3	95.8
2008	8.6		140.5	356.7	128.6	192.0	91.6
2009	12.8	13.0	169.8	211.8	142.0	187.5	515.0
2010	13.4	15.6	160.7	339.3	159.8	247.9	379.7
2011	29.5	22.2	234.5	382.4	150.9	243.9	366.8
2012	30.3	24.9	168.3	378.5	134.2	235.8	354.0

資料：FAOSTAT.

第6表 東南アジア諸国の農地面積当たり肥料投入 (USDA)

単位: kg/ha

	ミャンマー	カンボジア	インドネシア	マレーシア	フィリピン	タイ	ベトナム
1961	0.61	1.70	6.35	16.88	10.57	1.41	12.69
1962	0.64	0.40	6.86	18.46	11.90	1.71	14.73
1963	0.62	0.54	5.63	19.70	12.15	2.44	22.17
1964	0.76	0.59	5.67	20.08	11.34	3.00	20.01
1965	0.77	0.58	6.21	23.41	14.11	2.32	26.38
1966	1.06	0.60	5.27	26.50	14.54	3.81	15.84
1967	3.32	1.43	3.19	26.31	13.54	6.75	18.23
1968	2.83	1.27	5.73	27.77	20.14	8.46	13.40
1969	2.86	1.84	8.84	35.45	23.90	8.24	35.48
1970	1.95	1.24	9.43	37.70	22.88	7.45	35.47
1971	3.48	1.56	9.51	45.28	23.38	6.26	29.58
1972	4.37	1.28	11.91	44.08	21.90	10.33	26.23
1973	3.65	1.13	16.99	57.64	27.35	8.86	30.58
1974	4.53	0.74	17.64	46.18	29.11	7.81	36.81
1975	4.98	0.05	18.08	47.34	22.55	10.80	39.83
1976	4.45	0.05	17.67	51.95	24.14	10.87	45.38
1977	5.25	0.14	22.57	58.98	24.79	14.93	51.36
1978	7.41	0.40	26.09	70.30	29.25	16.74	43.62
1979	8.44	1.22	28.38	87.97	30.85	15.86	19.98
1980	9.18	3.60	41.63	94.31	27.19	14.58	19.42
1981	11.02	9.16	47.75	77.67	27.11	14.67	22.19
1982	14.96	5.05	51.09	79.16	29.05	13.57	26.93
1983	14.00	2.45	46.96	85.00	29.92	19.80	35.74
1984	16.63	0.74	54.20	105.61	21.91	17.97	34.64
1985	17.26	0.54	58.38	97.74	23.16	17.62	43.46
1986	15.91	0.32	59.60	101.26	31.24	21.51	46.46
1987	10.46	0.14	62.32	109.02	39.46	23.40	37.30
1988	7.54	0.02	66.93	121.29	40.56	28.56	51.73
1989	7.40	0.06	61.09	119.14	42.50	30.00	49.40
1990	6.55	1.16	64.50	116.67	46.96	39.03	48.74
1991	7.24	1.43	61.86	117.00	35.69	35.17	68.07
1992	5.89	2.63	65.16	116.82	40.11	40.95	66.09
1993	7.63	3.67	57.83	121.18	45.55	53.20	63.47
1994	12.21	2.78	61.69	133.69	48.41	49.39	98.46
1995	15.07	2.44	60.55	129.16	49.76	53.28	104.00
1996	13.89	1.96	63.44	134.05	60.38	53.96	120.44
1997	14.27	5.20	51.67	148.38	65.78	52.84	116.49
1998	13.77	2.08	62.07	165.10	50.44	58.68	138.75
1999	12.59	3.00	57.14	155.61	60.53	61.99	146.48
2000	15.50	2.77	56.29	141.68	60.96	54.07	155.09
2001	7.05	2.86	56.43	132.61	65.87	60.08	129.60
2002	9.09	5.80	67.32	142.09	60.34	58.90	143.03
2003	9.31	3.78	66.93	166.16	61.48	61.16	151.99
2004	4.97	5.29	77.16	193.81	62.23	62.18	153.11
2005	3.84	7.76	80.16	185.50	56.87	58.68	119.30
2006	4.01	7.59	77.41	205.75	55.73	54.41	122.64
2007	4.99	8.78	85.00	217.94	58.23	55.93	125.78
2008	3.97	6.90	83.43	164.73	51.67	51.32	112.73
2009	4.04	9.12	89.64	181.48	49.36	51.48	119.89
2010	4.98	11.02	93.53	228.51	46.67	59.95	127.96
2011	5.45	14.40	97.89	244.26	43.32	69.65	133.91

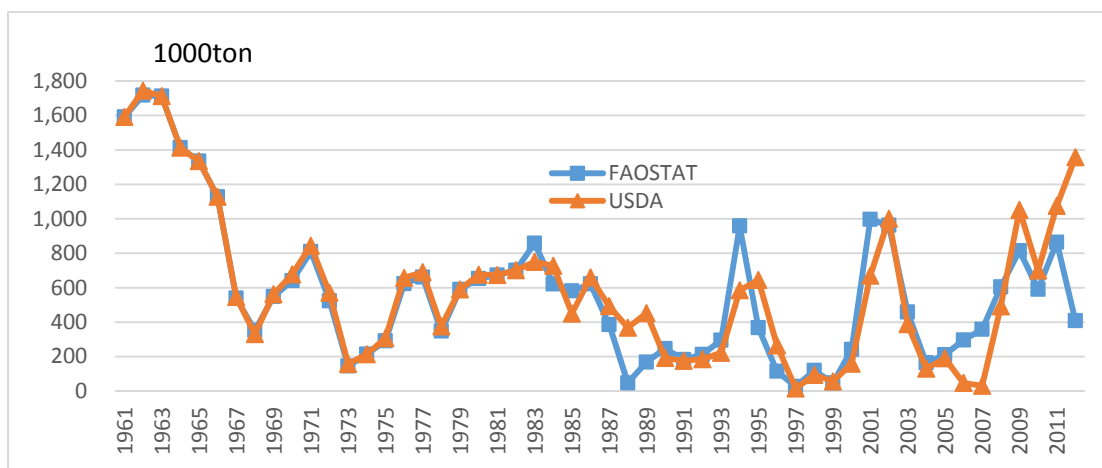
資料: USDA "Economic Research Service".

## (4) ミャンマーのコメ輸出

第5図はミャンマーのコメの純輸出量(以下、「輸出量」とする)を示すものであり、FAOSTATとUSDAの両方の値を掲載している。1961年から1982年までは両統計値はほぼ一致している。1961~66年までは100万トン以上のコメを輸出していた。ところが1967年以降減少に転じ1973年には僅か15万トン程度にまで減少している。その後は年による変動が大きくなっているが、100万トンを超える年は殆どない。近年の動向を見ると、FAOSTATとUSDAではかなり異なる。FAOSTATデータでは近年でも過去の動向と大き



な違いはない。それに対し、USDA データでは 2007 年を底として回復基調にある。特に 2012 年の値は FAOSTAT データでは 41 万トンと再度の減少を示しているのに対して、USDA データでは 136 万トンと大きな増加が見られる。両者の推計値は全く異なっており、かつ 1961 年以降これほど両統計の値と方向性が異なった年はなく、どちらの値が現実により近いのか非常に興味深い。



第5図 ミャンマーのコメ純輸出

資料：FAOSTAT, USDA PSD online.

ここまでは FAOSTAT データ（ミャンマー政府統計データ）と USDA データにより統計比較を行ってきた。ところがミャンマー政府により刊行されている Selected Monthly Economic Indicators（以下 SMEI と略称）の値が近年、FAOSTAT のデータと食い違うようになってきている。コメの輸出量については、2010 年と 2011 年は既存政府データと SMEI の値がほぼ一致していたが、2012 年の値は大きく違っている。既存政府データは 45.5 万トンであったのが、SMEI では 140 万トンとほぼ 3 倍の値である。2012 年～2014 年の値は SMEI の値は USDA データと近い値である。そして SMEI データによると、ミャンマーのコメ輸出量は大きく回復している<sup>4)</sup>。さらに輸出相手国であるが、2013 年の値を見ると、中国が 62%、インドが 19%、シンガポール 5%と、圧倒的に中国のシェアが高くなっている。

第7表 ミャンマーの精米輸出

単位: 1000ton

	FAOSTAT	USDA	SMEI
2010	593	700	536
2011	867	1,075	707
2012	455	1,357	1,397
2013	484	1,163	1,192
2014	n.a.	1,688	1,823

資料: FAOSTAT, USDA "PSD Online",  
Ministry of National Planning and  
Economic Development  
"Selected Monthly Economic Indicator".

#### 4. 豆類

##### (1) 世界の乾燥豆輸出とミャンマー

世界の乾燥豆輸出国上位 10 カ国の動向とミャンマーの位置づけを第 8 表により確認する。なお、乾燥豆については、ミャンマーは国家の威信等の観点で統計値を過大に出す誘因はないと思われるので、FAOSTAT の値をそのまま使用する。ミャンマーは 1980 年頃から世界でのシェアを拡大しており、2013 年には世界第 1 位かつ 34% のシェアを占める大輸出国となっている。

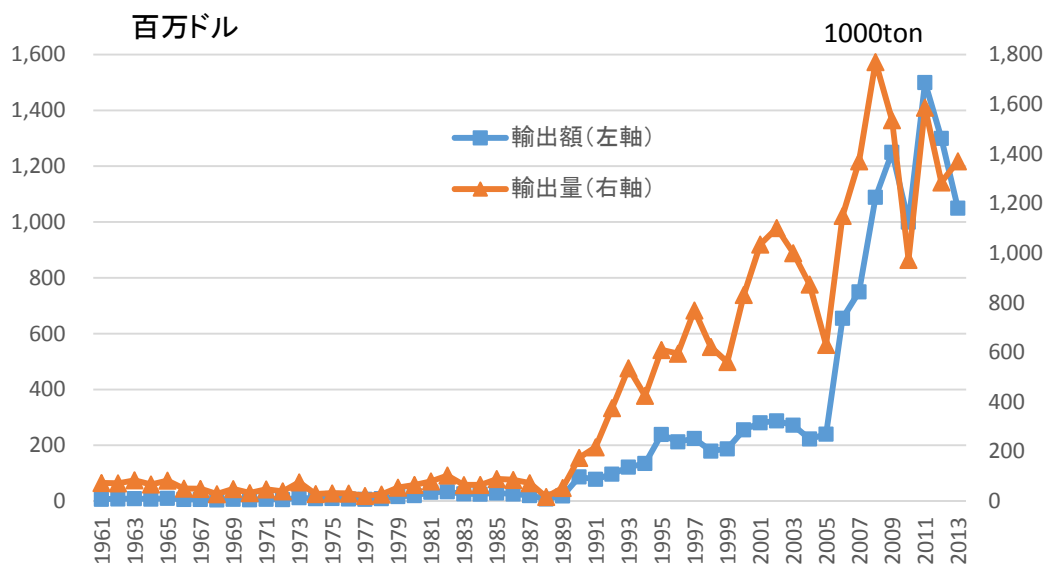
第 8 表 世界の乾燥豆輸出上位 10 カ国の輸出量及びシェア

輸出量												
単位: ton, %												
	1961年	1970年	1980年	1990年	2000年	2013年						
アメリカ	13,689	アメリカ	38,363	アメリカ	390,151	アメリカ	295,520	ミャンマー	255,332	ミャンマー	1,370,000	
ミャンマー	7,000	タイ	12,869	アルゼンチ	75,090	中国	200,346	中国	197,744	中国	799,918	
ブルガリア	6,286	オランダ	6,841	タイ	72,225	アルゼンチ	116,799	アメリカ	190,851	アメリカ	453,247	
オランダ	4,263	ブルガリア	6,600	チリ	32,632	ミャンマー	86,821	アルゼンチ	103,812	カナダ	294,371	
トルコ	3,939	ミャンマー	4,940	カナダ	30,265	タイ	67,815	カナダ	103,467	エチオピア	225,058	
チリ	3,900	アメリカ	4,403	オランダ	26,224	カナダ	51,377	オランダ	31,444	アルゼンチ	104,114	
タイ	3,447	カナダ	4,105	ミャンマー	20,113	チリ	44,282	オーストラ	27,131	エジプト	69,597	
マダガスカ	3,067	アルゼンチ	3,894	中国	18,000	オランダ	37,562	エジプト	19,893	オーストラ	63,251	
ホンコン	3,018	マダガスカ	3,719	タンザニア	15,833	トルコ	21,102	フランス	9,838	ニカラグア	55,646	
日本	2,506	ホンデュラ	3,269	台湾	11,087	ホンコン	17,193	パキスタン	9,638	ケニア	43,313	
その他	21,075	その他	31,886	その他	68,432	その他	135,459	その他	164,464	その他	535,558	
世界合計	72,190	世界合計	120,889	世界合計	760,052	世界合計	1,074,276	世界合計	1,113,614	世界合計	4,014,073	
構成比												
	1961年	1970年	1980年	1990年	2000年	2013年						
アメリカ	19.0	アメリカ	31.7	アメリカ	51.3	アメリカ	27.5	ミャンマー	22.9	ミャンマー	34.1	
ミャンマー	9.7	タイ	10.6	アルゼンチ	9.9	中国	18.6	中国	17.8	中国	19.9	
ブルガリア	8.7	オランダ	5.7	タイ	9.5	アルゼンチ	10.9	アメリカ	17.1	アメリカ	11.3	
オランダ	5.9	ブルガリア	5.5	チリ	4.3	ミャンマー	8.1	アルゼンチ	9.3	カナダ	7.3	
トルコ	5.5	ミャンマー	4.1	カナダ	4.0	タイ	6.3	カナダ	9.3	エチオピア	5.6	
チリ	5.4	アメリカ	3.6	オランダ	3.5	カナダ	4.8	オランダ	2.8	アルゼンチ	2.6	
タイ	4.8	カナダ	3.4	ミャンマー	2.6	チリ	4.1	オーストラ	2.4	エジプト	1.7	
マダガスカ	4.2	アルゼンチ	3.2	中国	2.4	オランダ	3.5	エジプト	1.8	オーストラ	1.6	
ホンコン	4.2	マダガスカ	3.1	タンザニア	2.1	トルコ	2.0	フランス	0.9	ニカラグア	1.4	
日本	3.5	ホンデュラ	2.7	台湾	1.5	ホンコン	1.6	パキスタン	0.9	ケニア	1.1	
その他	29.2	その他	26.4	その他	9.0	その他	12.6	その他	14.8	その他	13.3	
世界合計	100.0	世界合計	100.0	世界合計	100.0	世界合計	100.0	世界合計	100.0	世界合計	100.0	

資料: FAOSTAT.

##### (2) ミャンマーの乾燥豆輸出

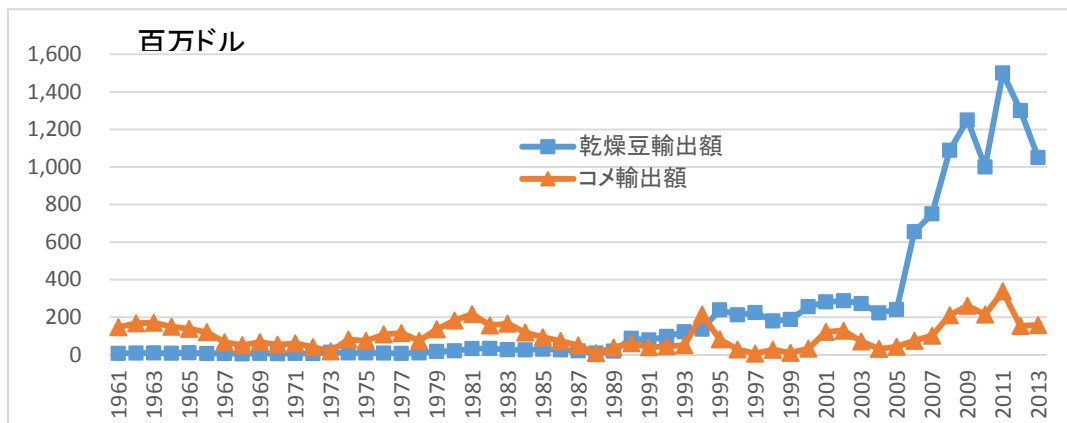
ミャンマーの乾燥豆輸出は 1987 年以降、量においても金額においても急拡大しているのがわかる。



第6図 乾燥豆の輸出額と輸出量の推移

資料：FAOSTAT.

第7図は乾燥豆とコメの輸出額を同じグラフ上で見たものである。コメの低迷に対して、乾燥豆の急拡大がわかる。



第7図 乾燥豆とコメの輸出額

資料：FAOSTAT.

つぎに豆類の生産量に関する統計を見る。豆類は17種類存在するが、ブラックグラム(ケツルアズキ)とグリーングラム(緑豆)がその大部分を占めていることがわかる。

第9表 豆類の生産量の推移 (Myanmar 統計)

	単位: 1000ton												
	1990	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
Matpe (Black gram) ブラックグラム	99	365	523	626	654	728	899	1,005	1,182	1,359	1,423	1,485	1,578
Pedisein (Green gram) グリーングラム	62	332	511	569	607	662	778	930	1,038	1,178	1,220	1,315	1,338
Butter bean バタービーン	46	34	49	50	52	57	62	70	73	78	77	83	83
Bocate (Cow pea) ササゲ	28	63	100	113	239	128	137	154	163	201	209	211	215
Sultani	4	5	9	9	9	10	11	12	13	13	14	15	16
Sultapya	29	29	56	49	57	66	71	90	95	103	108	109	116
Pelun	14	48	103	102	105	122	130	149	150	176	188	186	191
Pesingon (Pigeon pea) キマメ	42	142	315	459	435	478	547	600	645	719	765	761	824
Peyin (Rice bean) 米豆	6	8	26	26	29	29	31	33	36	42	49	52	54
Pebyugale (Duffin bean) ダフィン豆	1	2	5	5	6	7	7	8	9	9	10	11	11
Pegyi (lablab bean) フジマメ豆	40	45	63	62	68	75	79	91	93	109	124	127	132
Pegya (Lima bean) リマ豆	6	6	9	10	10	11	11	12	14	14	15	15	16
Sadawape (Garden pea) ガーデンエンドウ	14	24	31	33	38	44	43	45	56	60	58	61	67
Pevazar (Lentil bean) レンズ豆	0	1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1
Penauk (Krishna mung) クリシュナ緑豆	25	55	85	82	86	89	95	106	102	116	124	128	131
Gram (Chick pea) ひよこエンドウ豆	102	91	117	191	209	224	235	260	330	348	398	434	459
Peboke (Soy bean) 大豆	25	65	109	119	122	147	158	186	201	214	240	254	255

資料: Ministry of National Planning and Economic Development, "Statistical Yearbook".

ブラックグラムとグリーングラムの輸出相手国であるが、2013年において、ブラックグラムは77%がインド、グリーングラムは31%が中国、21%がインドであった。

## 5. おわりに

ミャンマーのコメ生産はこの30年間にわたり世界第7位の座をキープしてきたが、コメ輸出は絶対的にも相対的にも減少してきた。しかしながら最近の動向としては、FAOSTATを見る限りは長期低迷を抜け出せないでいるが、USDAのデータでは回復基調が見られる。さらにミャンマー政府により刊行される Selected Monthly Economic Indicators の値は、2012年以降は、USDAの推計値とかなり近い値をとるようになってきている。そしてその近年の数値は (FAOSTATの値とは異なり) コメ輸出の端的な回復を示唆している。そしてその主要な輸出相手国は中国である。

低迷していたコメ輸出とは対照的に、コメの裏作として始まった乾燥豆の輸出は急増している。

注

(1) 1962年から「ビルマ社会主義」と呼ばれる計画経済体制が1987年まで続いた。農業政策の根幹は1.農地の国有化、2.供出制度、3.計画栽培制度であった(栗田、岡本、黒崎、藤田(2004))。特にコメの供出制度は、消費者(コメ生産農家を除く)へのコメ配給制度、コメの国内流通及び輸出の政府による管理とセットになっており、2003年まで続いた。かかる低価格での供出制度が米作農民の生産意欲を損なったことは多くの研究者により指摘されている。

(2) ミャンマー農業の主要作物の播種面積はミャンマー国の農業灌漑省が公表しているが、最新の値は2012年に関するものである。

(3) 例えば、室屋有宏(2012)「ミャンマーの稲作農業」農林金融8月号, pp. 38-55。

(4) ミャンマー政府はコメ輸出量を2014-2015年までに250万トン、2019-2020年までに480万トンまで押し上げる計画を明かした。商務省貿易振興部のToe Aung Myint氏は経済・金融情報サービス会社「ブルームバーグ」のインタビューに対し、成長計画立案の理由を「中国を先頭に興る世界的なコメ需要増加」を挙げた。(Myanmar Business Today 2013.12.18, <http://myanmarbusinesstoday.jp/id/1148>)